

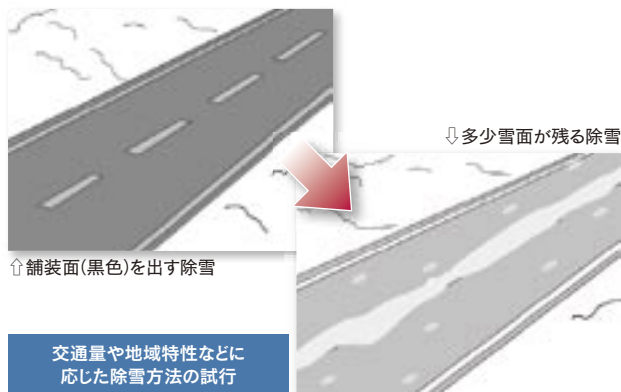
## 除雪方法見直しでコスト削減 札幌の冬道渋滞緩和に予算投入

北海道開発局 道路維持課

開発局は今冬から、冬道における除排雪のコスト削減に本格的に乗り出します。公共事業の削減が進む中で課題となっている札幌の冬道渋滞を緩和させるためには、道路の交通量によって除雪にメリハリを付ける必要があるとして2003年度から除雪方法の抜本的見直しを進めてきました。その見直し点とは…。

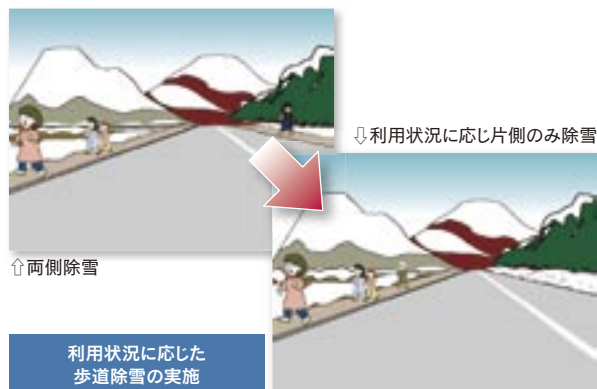
### ●見直し1—郊外の国道は地域特性等に応じ残雪もOK

これまでは舗装面が露出するまで除雪していたのを、交通量や地域の特性などに応じて、渋滞や交通安全上支障のない郊外の国道などでは多少雪面が残る除雪の方法を試行。除雪車の出動回数を減らします。



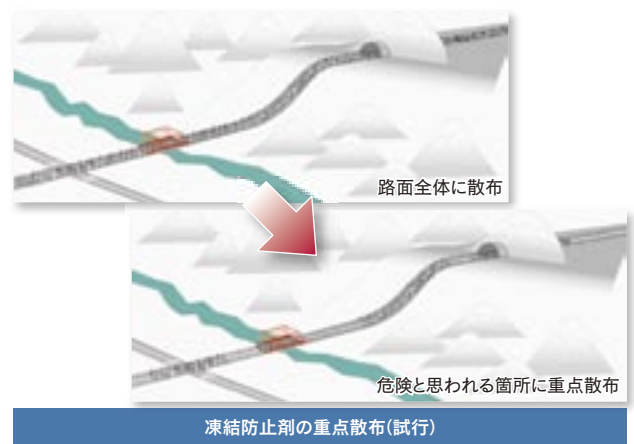
### ●見直し2—郊外の歩道除雪は利用状況に応じ片側だけに

さらに地域の实情に合わせた水準による路面管理の観点から、利用状況などにも応じて都心部を除く歩行者の少ない郊外などでは片側だけの除雪にするなどの取り組みを実施します。



### ●見直し3—凍結防止剤散布にもメリハリ

また、従来は路面全体に実施していた凍結防止剤の散布を、環境への配慮の観点からも、モデルとなる路線・箇所(交差点や橋面、坂道、トンネルの出入口などの危険と思われる箇所)などを特定し、凍結防止剤の散布箇所にもメリハリをつけた重点散布を行います。



### ●渋滞緩和対策—交差点の除排雪を強化

一方、これら除雪方法の見直しによって浮いた除排雪の予算は札幌の冬道渋滞緩和対策に投入することとしています。具体的な対策としては、ドライバーの視界の妨げとなる、除雪による交差点脇の雪山の除雪を強化。昨年度は市内4箇所だった対象交差点を、冬期の交通渋滞が多発している国道275号と環状通(市道)が交差する地点を加え5箇所とします。

除雪にメリハリを付けながら、全体の道路管理をしっかりと行い、なおかつ冬道の渋滞を緩和するという今冬の開発局の取り組みにご期待ください。

